

まごころ通信

教育長コラム

～『新しい学校づくり』～

児童生徒数の減少、校舎の老朽化等に伴い学校の施設や配置の在り方をどうして行くか『新しい学校づくり』は本市の喫緊の課題となっています。

これらの対策は極めて重要ですが、教育委員会では、『新しい学校づくり』を単に学校施設を建て替えたり、学校の配置を見直したりする事業とは考えてはいません。私たちが目指しているのは、小田原市が大切にしている※「社会力」の育成で、こどもたち一人ひとりが、自分を輝かせ充実した人生を送り、より良い地域社会を創ることのできる人間へと成長していくための教育環境を整えることです。

社会力を育むためには、人やもの、様々な出来事との関わりの中で自分を高め、互いに高め合う力、関わる力が必要です。特に、友達の考えや思いを尊重しながら学び合うこと、スポーツや様々な活動を通して切磋琢磨すること、そして一人ひとりの違いを認め、互いの良さを取り入れながら成長することなど、人との関わりが重要です。そのような経験の積み重ねが、学力だけでなく、体力や豊かな感性

(心力)を育み、社会の中で生きていく力へとつながっていきます。社会力は、一人では育むことができません。多様な人との関わりの中でこそ育まれるものだとは私たちは考えています。



だからこそ、これからの学校には多様な仲間と学び合える環境、一定規模の児童生徒数、教職員がチームとなって、こどもたちを支える体制、そして地域の皆さまとともに、こどもたちの成長を見守る仕組みが必要です。

『新しい学校づくり』は、学校を新しくすることが主たる目的ではなく、「社会力」を育む教育を実現するために、学校の仕組みや環境を未来に向けて再設計する取組なのです。

私たち大人が未来を予測することはできません。しかし、どのような時代になっても、こどもたちが人とつながり、自ら考え、地域や社会をより良くしていこうとする力は、決して変わることはない財産です。その力を育む学校を、市民の皆さまとともに創っていきたいと考えています。

※まごころ通信第26号参照



小田原市教育委員会教育長

柳下正祐



小・中学校の体育館に空調設備が設置されました！

1. 概要



市立小・中学校の体育館の暑さ対策は、こどもたちの安全のために早急に取り組む必要があります。
今年度は、小・中学校4校(桜井・下中・白山・鴨宮)へ空調設備を整備しました。
今後、運転状況を確認し、令和11年度までに全市立小・中学校への設置を目指します。

2. 空調設備について



【省エネ】

人が活動する高さ(約2m)だけを冷やし、無断なエネルギーを削減します。



【快適・健康】

約20分で暑さ指数を運動可能な数値まで下げます。上部から排気をし、新鮮空気を取りこみむことで感染症対策にも有効です。また、静音で式典等にも影響しません。

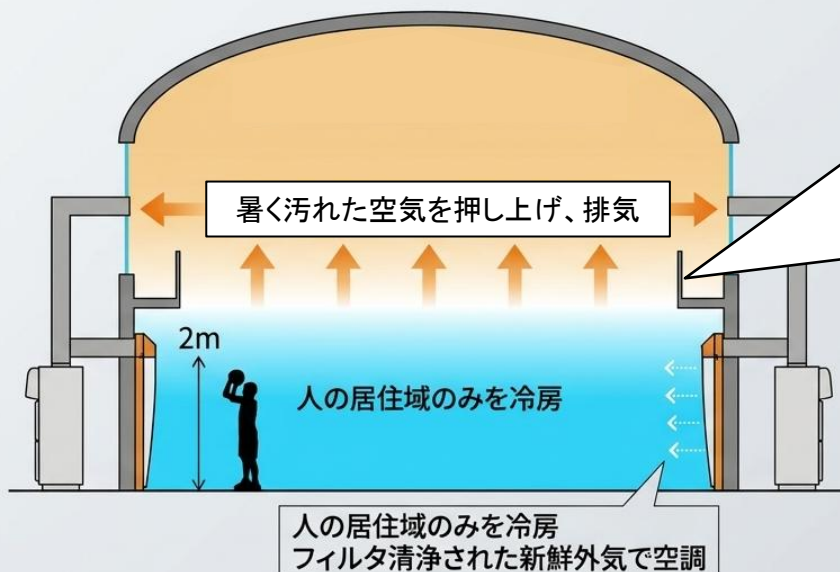


【安心・安全】

空調設備の奥行きは15cm程度とコンパクトなため、授業や部活動などへの影響が少なく、また、吹出ユニットには衝撃吸収材が施されているため、児童・生徒の安全にも配慮されています。

3. 置換空調方式のイメージ図

置換空調の方式では、空気の密度差を利用し、室内温度よりやや低い温度の空気を低速で吹き出すことで高さ2mほどの冷氣層を作ります。



空調利用者からの声

教員

熱中症のリスクや体力の消耗を軽減し、快適に安心して保健体育科の授業や部活動などの教育活動ができるようになりました。

児童

体育館は、最初はもわっとして暑かったけど、運転すると涼しく気持ち良くなった！エアコンなしで体育をした時より、快適で最高！